

# 夢は「日米の懸け橋」

被災3県の若者

## ケネディ大使と懇談

東日本大震災を契機に始まった日米の官民連携

による交流事業「トモチチプログラム」に参加した若手、宮城、福島の高



東日本大震災の被災地の高校生らと交流するケネディ駐日米大使＝13日午後、東京都港区の大使公邸(代表撮影)

校生、大学生計11人が13日、キャロライン・ケネディ駐日米大使と都内の大使公邸で懇談した。

出席者全員が短期留学の経験などを英語でスピーチ。仙台二華高3年の小倉麻以佳さん(17)は

「井藤士が外交官になって西国をつなぐ懸け橋になりたい」と夢を話した。一関一高3年の大村真奈美さん(16)は「経営管理を学んで世界中に幸せを届ける製品を生み出した」と語った。

ケネディ大使は「日米の緊密な信頼関係をさらに強化するため、次世代の皆さんには重要な役割がある」と強調し、「若い人の新しい視点で絆づくりに貢献してほしい」とエールを送った。

公邸では「トモチチプログラム」の支援団体として新たに参画した企業幹部を招いてのレセプションがあり、生徒らが親睦を深めた。